



ダーレー・ジャパン協賛

第27回 岩手県知事杯OROカップ (M1) (タリスマニック賞)

盛岡競馬場／3歳以上OP・地方競馬全国交流・芝1700m

8月18日(火)第11競走 17:40発走

『ORO』。OROパーク盛岡競馬場と同じく『黄金』の意味のOROをレース名にいただくこのレースは1999年に芝2400mの重賞として創設。第3回は芝1700mに短縮され、一方で第4回から東日本交流、2003年の第5回からは地方全国交流と交流範囲を拡大してきました。2022年はJBC盛岡開催にあわせて11月に実施され注目を集めたこともまだ記憶に新しいところ。第14回・第15回のナターレ、第17回から第19回のロゾヴァドリナ、第24回・第25回のアトミックフォースなど連覇が多いレースでもあります。

■ゴールデンシロップ(牡8 岩手・佐々木由則厩舎)



JRAでは2歳新馬勝ちこそ逃したが2戦目で勝ち上がってからは順調にオープンまで勝ち上がり、一昨年11月にはリステッドでも勝ち星を獲得。オープン級での実績は今回のメンバー中でも最右翼と言えるものを持つ。しかし岩手に移籍してからは最高が7着、勝ち馬との差も最短で1秒3差に留まっていたかつての輝きを取り戻せないでいる。芝で、あるいは短距離で変化の兆しを感じさせてはおり、ここは戦いやすい舞台で復活のきっかけを掴みたい。

状態自体は変わりはない。ここまで見せ場を作れないでいるが、スタートが決まればもう少し良い競馬もできるのではと思っています。(佐々木由則調教師)

■スタンリーテソーロ(牡5 浦和・小久保智厩舎)



提供:Akihiko Takeda.

JRA時代には2歳新馬、1勝クラス、2勝クラスといずれも東京で勝利を挙げた。3勝クラスでも1着こそなかったが勝ち馬とは1秒以内に食い下がっていた戦績は、元3勝クラスが多いここでは“地力でひけを取らず”の評価ができる。ただしそれは全てダートだった点は注意が必要だろう。小回りは浦和で対応してきたがJRA時代を通じて初の芝はやはり課題といえる。本馬のきょうだいもどちらかと言えばダート・短距離での活躍が多い点も気がかり。芝でどれだけの走りを見せてくれるか？が焦点。

動きもよく態勢は整いました。期待しています。（小久保智調教師）

■マンダリンヒーロー(牡6 大井・藤田輝信厩舎)



昨年のこのレースでは3着。以前から盛岡の芝で・・・と藤田師が願っていた本馬にとってようやく立てた舞台、結果としては敗れはしたものの、4角先頭から何度もファイトバックしてみせた走りはやはり力がある馬・芝でも戦える馬だという手応えがあった。今年は「休養明け時の能力試験の際に鞍上からの進言があって短距離を使ってきた（藤田師）」そうだが盛岡の芝もちろん目標にあったとのこと。まだまだ老け込むには早い6歳馬だ。昨年以上の走りを期待したい。

近走は短距離を使ってきましたが、昨年3着の盛岡の芝も相性が良いと思います。ここまでは違う結果を期待したいですね。（藤田輝信調教師）

■ギャレット(牡7 岩手・佐藤浩一厩舎)



この「見どころ」でも触れてきたが本馬は“岩手デビューの芝巧者”。ここまで10勝のうち5勝が盛岡の芝で挙げたものというキャリアがそれを物語り、芝ではその存在を欠かすことができない一頭だ。一方でその芝での勝ち星は全てマイルだという点にも触れておかななくてはならないだろう。このレースには過去二度挑んでいるが11着・4着。芝1700mではその4着が最高だ。7歳の夏、今季ここまでの芝重賞は5着・4着とまとめてきている。“三度目の正直”へ、もうひと伸び。

今年のレースを見ているとこれまでより若干パンチ力が薄れたのかな・・・という印象はあります。得意の芝で変わってくれる事を願っています。（佐藤浩一調教師）

■ウィルオレオール(牡4 北海道・小国博行厩舎)



2歳時から門別のトップクラスで活躍。3歳時はソルジャーフィールドと覇を競い合い、結果的にはライバルが三冠馬の称号を手にしたのだが、本馬の存在がその戦いのレベルを底上げしたのは確かだろう。そんな彼が本格的に芝路線に進んできた。7月にはJRAの函館・札幌の芝に遠征、着順の数字は大きかったがタイム差は小さくメドは十分に立てている。「1200mはちょっと短い感じがあった。小回りの盛岡なら1700mでもこなせるとし、左回りは南関で対応しているからね」と小国師。新境地をここで開く。

調教をこなした方が良い成績が出る馬なので中間もしっかり乗り込んできた。芝も距離も問題ないと判断しているし左回りも対応できるでしょう。(小国博行調教師)

■ハウゼ(牡6 岩手・永田幸宏厩舎)



提供:永田幸広厩舎

JRA時代には3勝クラスまで進出。3歳時のJRA中山・水仙賞ではここにも出走しているメイテソーロとワン・ツールの結果を残している。しかし3勝クラスでも勝ち負けが見えてきたタイミングで長期戦線離脱、約2年の休養を経て今年7月に門別で復帰し、2戦を経て岩手に移ってきた…というのが彼の現在地となっている。現状はまだ本来の走りを取り戻す途上と見るべきだろうが、JRA時代には洋芝向きと期待され実際札幌・函館の芝を得意としていた馬。ここでも少なくとも何かの糧を掴んでくれるはずだ。

当初は緩さがありましたが乗り込むにつれて解消されてきています。追い切りもこなして仕上がりはまずまずだと感じます。(永田幸宏調教師)

■メイテソーロ(牡6 岩手・木村暁厩舎)



転入初戦のせきれい賞で2着、2戦目のいしがきマイルーズも2着。悔しい敗戦ではあったが、2400mと1600mという性質が違う距離でも堅実に戦えた点は高く評価して良いはず。JRA時代は主に2000m以上の芝を舞台に戦い3勝クラスまで出世しておりそれだけでも実力ありと言っているのだが、初の盛岡、初の洋芝に対応したのもその裏付けがあってこそのはず。ダートでも活躍できそうだがやはりここは芝の舞台で力量を見せつけておきたいだろう。今度こそ金メダル。

前走後も順調に、夏負けとかもなく来ています。ベストはもう少し長い距離なのかもしれませんが適性があるのは分かった。あとは相手関係ですね。(木村暁調教師)

■ゴールドギア(牡11 岩手・伊藤和忍厩舎)



とにかく衰えを知らない。3年前に岩手に来た時点で8歳だったとはいえJRAでも息長くオープン級で戦っていた馬、当初の連続好走に不思議はなかったが、それから4シーズン経って11歳も半ばを過ぎた今でも一線級で戦っているとは正直想像できなかった。近年は東海地区にいる時期が長く岩手には芝シーズンに合わせて戻る形で、今年も秋になればまた東海に戻る予定。だがその前に。過去3着・2着と僅かなところで届かなかったこのタイトルを今度こそは獲り切りたい。まだまだその力はある。

せきれい賞の時はパドックでもうるささが目につきましたが前走はだいぶ以前の雰囲気に戻っていた。11歳でも身体は若い馬。ここでも良い結果を期待しています。(伊藤和忍調教師)

■ジュンゴールド(牡5 浦和・水上直人厩舎)



提供:Akihiko Takeda.

JRAでは2歳新馬勝ちから2戦目の特別戦を連勝した実力馬。明けて3歳の京成杯、スプリングSでは人気に推されつつ敗れたが、当時から気性面の課題が見えてきていたようだ。近況でもそういう面はあるようで「乗り難しいところがある」という水上師だが同時に「力を出し切れれば力はある馬」とも。浦和ではまだ2戦だが試行錯誤しつつ陣営の手の内に入ってきている印象もある。舞台が芝に変わって変身なるか?に注目だ。

前走から間隔が無いので追い切りは軽めでしたが状態面に変わりはないです。芝が合いそうなフォームですし、ここで変化を期待しての参戦です。(水上直人調教師)

■ヴィクティファルス(セン8 大井・藤田輝信厩舎)



提供:TCK (東京シティ競馬)

JRA時代にはデビューから3戦2勝で重賞タイトル獲得し3歳クラシック三冠も全て参戦。その後はダートや障害にも挑みつつ、昨秋から地方に転じてからも含めてここまで常にオープン級。間違いなくエリートと言える戦績だ。本馬の面白いところは初コースで好走する、反対から見れば“二度目のコースではもうひとつ”という点。陣営もそこも意識していて、盛岡の芝が初めてという部分も今回の遠征の理由のひとつのようだ。先にも触れたようにここまでの走りはオープン級のもの。初盛岡で力を出し切ってきたなら当然怖い存在。

ここまで各地を使ってきましたが初めてのコースの方が力を出してくれる傾向があるように感じます。近走から思い切って条件を変えてみるのも狙いです。(藤田輝信調教師)

■コスモフロイデ(牡7 岩手・板垣吉則厩舎)



今季の岩手の芝シーズン開幕を告げたせきれい賞を逃げ切り勝ち。ダートでもA級上位で勝ち負けしていた近走、そしてJRA時代は3勝クラスで戦っていた戦績、さらには洋芝の函館で2勝を挙げていたことを思えばその結果もむしろ当然と言っていいだろう。前走はダート変更のマイル戦で2着に終わったが、それも芝だけではなくダートでも戦えることの再確認になったはずだ。多頭数でも外枠なら崩れていないのがJRA時代の走り。11番枠はむしろこの馬の味方になってくれるのでは。

いわゆる“ヨーイドン”よりはせきれい賞のようなスタミナ勝負の形がいい馬だと感じます。1700mで同じような競馬ができるかどうかですね。（板垣吉則調教師）

■モズマーヴェリック(牡5 岩手・佐藤雅彦厩舎)



前走のいしがきマイルズを岩手転入初戦ながらも快勝。上がり3ハロンは36秒6の表示だが直線の坂を越えてからは後続を引き離す一方で、鞍上の高松亮騎手も「想像以上に伸びてくれて気持ちよかった」と振り返る勝利だった。実は陣営は、JRA時代の実績が2000m以上だったことから距離短縮を心配していたようだが、本馬はそれもすんなり対応。それだけ盛岡の芝との相性も良いと見ていいだろう。そしてそういうことなら100m延長はもちろん望むところだ。前走の再現を狙う。

状態面は変わらないですし距離も長くなった方が良いと思う。今回は多頭数の外枠で、前走のような形で戦えるかどうか？でしょうね。（佐藤雅彦調教師）

■ヴァトレニ(セン8 岩手・佐藤雅彦厩舎)



芝でもう一戦を狙った前走が思いがけないダート変更。しかしそれでも勝ったのだからやはり力はある。JRA時代は芝のオープン勝ち、重賞でも度々掲示板を確保している本馬だがその多くは1200mの短距離戦。園田で勝ったのもダート1400mだったし、岩手に来てからも陣営には距離面の懸念はあったようだが、芝マイル、そしてダートマイルで好走できたのは手がかかりになったはずだ。振り返ってみれば札幌の芝1500mで3勝、その距離のレコードタイムも持っている本馬。1700mもすんなり対応できて不思議はない。

前走はダートでも馬場が軽かったのが良かったのでしょうか。実績が短距離だから距離はまだどうだろう？と思いますが位置取り次第かな。良馬場でやりたいね。（佐藤雅彦調教師）

■シンボ(牡9 北海道・齊藤正弘厩舎)



2歳時は当初門別から岩手に挑む形で重賞挑戦。岩手に移籍してからの金杯を制して初の重賞タイトルを手にした。ジュニアGPで2着に食い込んだように当初から芝での活躍も期待されており、門別所属時に2勝クラスに遠征して勝利、JRAに移籍してからも初白星までは時間を要したものの最終的には3勝クラスで勝ったのだからやはり力はある馬なのだ。惜しむらくはその勝利の直後から2年以上の休養となり、門別で復帰してからも勝ち馬との差を詰めることができずにいる近況。実に7年ぶりの盛岡の芝に復活の手がかりを求める。

ずっと太めできていたが徐々に絞れてきた。輸送があればもう一段階絞れるだろうし、であればこの馬本来の先行策も採れるでしょう。変身に期待しています。（齊藤正弘調教師）

文・写真／横川典視

写真提供／TCK東京シティ競馬 Akihiko Takeda.